

校外学習実施後の7月9日には担任の教諭と代表児童が博物館を訪れ、各児童が手書きしてくれたお礼状をいただきました。また、7月30日には仲泊小学校にて校外学習で学んだことをまとめた発表会も開催され、博物館職員も招待していただきました。校外学習をとおして、「様々な場所を訪れることが出来たのがとても楽しかった」や「土器に触る体験が出来て良かった」などの感想を言ってくれた児童もあり、少しは皆さんの学習のお役に立てたのではないかと思います。

現在は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、大人数を受け入れることが難しい状況ですが、当館ではこれからも学校での学習などにも役立てていただけるよう、さまざまな取り組みをしていきたいと思っています。



お礼状もいただきました

恩納村の文化財 69

収蔵資料紹介 | 沖縄県内最大級の磨製石斧

今回、紹介する資料は仲泊第一貝塚で発見された沖縄県内で最も大きい磨製石斧です。当館に所蔵されている資料はレプリカで、本物は沖縄県立博物館・美術館に所蔵されています。この磨製石斧は長さ 30.2 cm、幅 5 cm、重さ 2,830 g で石斧としてはとても大きいです。石斧の左右側面にくぼみがみられることから、クワのように利用したと考えられています。昔の人々の暮らしを紐解く貴重な資料となっています。(文化財担当：大城)



約40年ぶりに発見されたリュウキュウヤマガメ



背中がデコボコして特徴的な甲羅と首や手足が赤色を帯びています

7月20日に安富祖公民館より車道を歩行中のカメを保護したと連絡をいただきました。そのカメは、国指定天然記念物の「リュウキュウヤマガメ」でした。『恩納村誌 自然編』によると約40年前に字喜瀬武原で目撃記録があります。それ以降、発見報告がないままでした。今回の発見で、沖縄の固有種のリュウキュウヤマガメが北は国頭村、南は喜瀬武原から安富祖まで広がっていることが新たに分かり、すごい大発見となりました。

天然記念物は法律や条例で保護されていますので、そっと見守ってください。(文化係：崎原)